

## コーヒーの ある時間 Vol.6



# コーヒー、 その世界を変えた飲み物

コーヒーは面白い飲み物です。あまり知られていませんが、人間が口にするものの中でもっとも経済的に影響力を持つと言われています。世界経済に影響がありそうな食物というと、米や小麦、大豆やトウモロコシなどがあげられるでしょうが、コーヒーはこれらすべてより世界貿易での取引高が上です。そしてこれは食品に限った話ではありません。鉄鉱石や石炭、ウランや綿花、天然ガスといった貿易品目よりも上。すべての商材を合わせても、世界で二番目に取引高の大きな貿易品目なのです。(コーヒーより上は石油のみです。)

そして、人間がくちにするものの中で、もっとも成分の多い食品であるとも言われます。調べれば糖類、脂質、窒素化合物、クロロゲン酸、カフェインなど、細分化のキリがないほど多くの成分が析出されるのです。

コーヒーの味が苦手だと言う人について、このように言われる事があります。コーヒーは含有成分が多

く、味が複雑すぎて味覚が追いつかないため、そのために感じるのが不快感や違和感なのだ。だからこそ自家焙煎コーヒー店は本気で、複雑に絡まった味覚成分の格子を解し、焙煎や抽出で味を整える必要があるのです。

コーヒー育成の起源は諸説ありますが、アラビカ種に限れば、アフリカの東の方に生育するアカネ科の木がありました。それがコーヒーの木、アラビカのコーヒーチェリーです。アラビア半島の西の原生林にもあったという学説がありますが、それはウエゲナーの大陸移動説の証左です。現在は紅海がアフリカ大



▲コーヒーの祖国エチオピアのイルガチェア・コーヒー

陸とアラビア半島を分断しています。かつて二つの土地は繋がっていたため、そのような話になっているのだと思います。しかし「始まり」がエチオピアであるという物語に關して言えば、個人的にはいかなる疑義も抱きません。

エチオピアで見つかったアフリカ類人猿の化石(ラミダス猿人)が、世界のどの類人猿よりも人間に近い脳の発達を遂げていた事に関して様々な研究がなされていますが、私はそこに、ひとつの真実を見ます。類人猿は世界各地にほぼ同時期にあらわれているのに、なぜラミダス猿人だけが脳機能が爆発的に進化していたのか？それは世界中でただひとつ、その場所でした動物がくちに出来なかつた野生の食べ物、つまり赤いコーヒーチェリーが関係しているのです。

大袈裟に言えば、コーヒーは類人猿をホモ・サピエンスに進化させる



▲原始的なコーヒー農園の連なる農村地帯

次号は「美味しいアイスコーヒーの作り方」  
についてお話しします。



小森 敦也 (こもりあつや)

1982年4月12日生まれ  
岐阜県立関高校卒業。東京の大学を経て複数の会社勤務の後、関市のカフェ・ド・ギャラリー アダチに入社。カフェ・パッハのトレセンを経て、CQIのQグレーダー資格を岐阜県で初めて取得。2016年より代表取締役。現在店舗運営に留まらず、海外の農園を視察し、コーヒー豆の収穫や買付に携わる。

カフェ・アダチ

関市小瀬1833 TEL0575-23-0539

くらい、動物行動や生活様式をアップデートしてきました。それはその後の世界史にも、当然の事ながら波及しています。植民地だらけのアフリカ大陸で、なぜエチオピアだけがもっとも早く独立国家となったのか。それはコーヒーの木の起源とやはり無関係ではありません。紛争だらけの中東で、あつさり主権国家を築いたイエメンも同様です。コーヒーという人類にとつてあまりに影響のある食品は、時代や年代、場所を変えながら、世界史の重要な場面で何度も何度も顔を出してきたのです。